

恐竜から車軸藻まで、 過去を探るにはどんな化石も見逃せない！！

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

久保田 克博



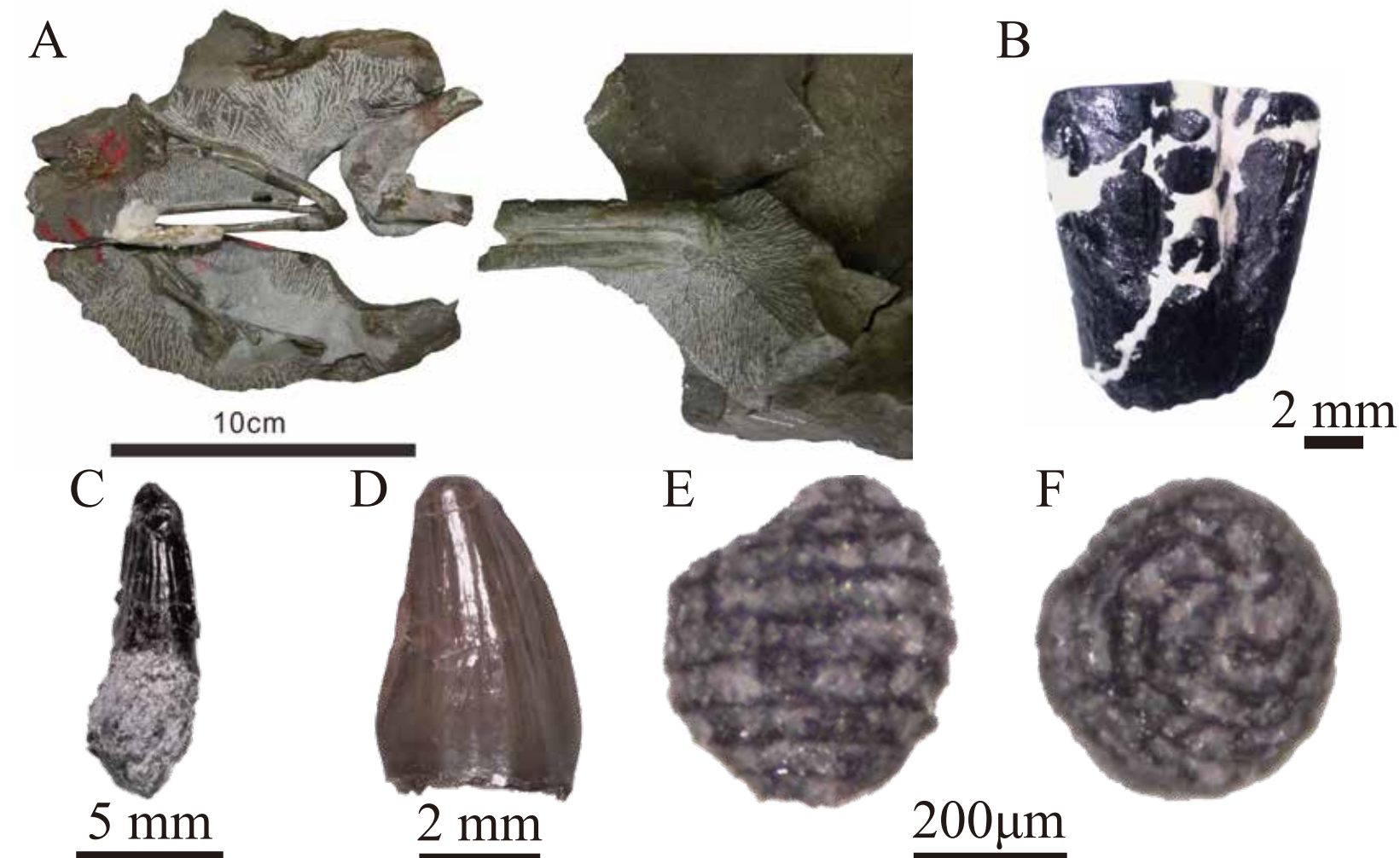
● 丹波地域に広がる篠山層群からみつかった化石の研究

2006年に丹波市で恐竜化石が発見されてから、現在までに4万6千点を超える化石が発見されています。恐竜やその他の脊椎動物の化石のうち、保存状態が良いものは注目を集めますが、当時の生態系を知り尽くすにはそれだけでは足りません。1本だけの歯や肉眼では見えないくらい小さな化石も重要なカギとなります。

私は日本では例が少ない骨同士がつながったトロオドン科の恐竜化石をはじめ、篠山層群から発見された様々な歯の化石のほか、肉眼では小さな黒点にしか見えない車軸藻の卵胞子化石まで研究対象としています。これらはきっと約1億1千万年前の世界を考える上で大きなヒントとなることでしょう。

● 日本の中生代の恐竜化石のリストをつくる

恐竜化石が新たに発見されたり、新しい情報が明らかになったりすると、多くのメディアで取り上げられます。最近ではそれらの数が増えて、情報をまとめることが難しい状況となっています。しかし、これらの総括は日本の恐竜化石事情を明らかにするだけでなく、新しい仮説を立てるのにも役立ちます。私はそんな基礎データを2017年に整理しましたが、5年が経過した今、再整理を行っています。



A. トロオドン科の骨格、B. イグアノドン類の歯、C. ワニ形類の歯、
D. ワニ形類の歯、E. 車軸藻の卵胞子（横から）、F. 同（上から）

